

# 変化する中国人観光客

● 放 眼 日 中

中国経済が減速し、株価が下がり、人民元も安くなっている。すわ、日本経済に恩恵をもたらしている中国人観光客の爆買も終わるか、と今年の旧正月ではこの話題がかなり取材され、報道がなされていた。確かに、爆買の勢いは少し落ちてきたようだが、それは日本人が考えるような、経済的理由だけなのだろうか。中国人にも、かなりの変化が見られるように思うのだが。

「訪日中国人は今後も増えるのか」ともし問われれば「政治的要因によるブレーキがなければ」と「日本側の受け入れキャパシティーがあれば」という前提で、「イエス」という答えになるのではないか。また「爆買は続くのか」という問いがあれば「日本製品の質が低下しなければ」と「中国側の規制、および越境EC（国際的電子商取引）などが過度に

発展しなければ」という前提で「ある程度続く」という答えになるかもしれない。

「観光客も爆買も続いていくが、その質は確実に変化していくだろう」と語る中国の友人たちが多い。既に団体観光旅行から個人旅行へどんどん移行しているが、いまだにマスコミはバスで乗り付け、買い物をしている中国人を追い掛け回している。中には「中国人が殺到している穴場を教えてほしい」と言ってくる関係者までいるので、「それを探るのがあなたの仕事でしょう」と、つい言いたくなってしまう。

日本中を歩いていると、今や九州の外れだろうが、四国の山の中だろうが、中国人を見掛ける機会が増えている。彼らだつて初めてのときは何も分からないから団体行動だが、リピーターになれば、自分たちで行

動する。そして「自分たちの日本を自ら探したい」という希望を持っている。

同時に、買い物よりも、名所観光よりも「もつと日本のことが知りたい」。普通の日本人と接してみたい」という欲求も増してきているように感じる。経済的な効果より、むしろ長期的に見ると、こちらの方が将来の日本にとって良い結果をもたらすのではないだろうか。このあたりをビジネスチャンスと捉えて動きだすこと、観光客に提案していくことが重要であり、爆買に依存しない、新たなインバウンド戦略になるであろう。

また「中国人のマナーは改善するのか」という点を、友人たちと議論してみた。結論は「学習により改善していく。昔の日本人がそうだったように」ということだ。実際、先日

羽田空港で、列に並ばない年配の中国人を同じ中国人の若者がたしなめていた。ごみの持ち帰りなどの意識も高まっている。今や中国人の間でもその行動を恥ずかしいと思う人が増えており、行動を自制する動きが顕著に出ている。

ちなみに、米ニューヨークに駐在していた知り合いが「中国人よりアメリカの方が声は大きい」と発言したのを聞いて、アレ、と思った。それは、地声としてアメリカ人の声が大いのか、それともアメリカに行くとき中国人も萎縮して声小さくなるのか。もう一人が「中国人がうるさいと思われてしまうのは、常に声の音量が一定に大きいからだ」と言うに及んで、中国人もTPOをわきまえ始めれば、おのずと静かになっていくかもしれないと思うに至った。



コラムニスト・アジアソウオッチャー  
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。